

みんななかまさ!

〈 きれいはいのプログラム 〉

しかい : かなざわ けいこ

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1、しずかなころ | |
| 2、みんなで歌うた | ♪「ともだちになるために」P.33 |
| 3、みんなでいのる | 主のいのり P.92 |
| 4、みんなで読むせいしょ | ルカによる福音書第16章19-31節 |
| 5、みんなで歌うた | ♪「アーメン アーメン アーメン」P.3 |
| 6、みんなで聞くおはなし | 「おてんき」すがさわ くにあき |
| 7、みんなで歌うさんびか | 讃美歌285番♪「しゅよ、みてもて」P.73 |
| 8、けんきん | ♪「いまそなえる」P.92 |
| 9、しずかなころ | |

〈今日の活動〉 わがまちクリーン作戦

〈 ほうこく 〉

31日(日)は、「とびら」でした。絵本「つきをいる」(訳:君島久子、画:瀬川康男/福音館書店、2026年)を読んでくださいました。中国の先住民に伝わる、月と夜空にまつわる民話です。大昔、空には太陽があるだけで、月や星はなく、夜は真っ暗闇でした。「やーら」は、ぎらぎらとした月を射ったのですが、「にーお」が織った綿を矢で放つと、綿が月を覆い、月はあやしい光を放たなくなりました。ですが、「にーお」が、月にいる「にーお」と一つとなってしまう、「やーら」が、嘆き悲しみますが、「にーお」が月に招き入れ、以来、2人は月で幸せに暮らすことになりました。月はただ美しい存在だけでなく、時には、人々を苦しめる存在として描かれて、その月に立ち向かう「やーら」と「にーお」の勇気や知恵が、感じられる絵本でした。



活動は、またまた5月も終わりと言うのに、畑で、真っ赤ないちごが待っていました。「ようちえんのいちごが、いちばん、おいしいわ」と、口と手を真っ赤にして、食べる子どもたち。ほんとに、嬉しくなるほど、ピカピカな真っ赤、そしてとっても甘いいちごをみんなで、いただきました。帰ってきてからの、かき氷も美味しかったです!

〈 こどもといのる 〉

お父さんやお母さんも、畑のカエルやカボチャにも、それぞれに物語があります。神様が与えてくださった「いのち」です。その「いのち」の物語を大切に作る私たちでありますよう。

(わきもと たけのり)

〈 おしらせ 〉

◇次週、6月14日(日)は、「子どもの日・花の日合同礼拝」です。朝の活動は、お休みで、10時からの礼拝になります。どうぞ、ご家族で、ご出席ください。お待ちしております。

牛乳パックを集めています。集まった牛乳パックは「おかえりティッシュ」「ただいまロール」になります。牛乳パックは、45183枚から 29枚 集まりました。合計 45212枚 になりました。2016年5月末に80000枚に到達し、2016年6月より新たにカウントをスタートしています。

2026年5月31日(日)

5月生まれのお祝いをしました





一ある金持がいた。彼は紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。ところが、ラザロという貧しい人が全身でき物でおおわれて、この金持の玄関の前にすわり、三その食卓から落ちるもので飢えをしのぐと望んでいた。その上、犬がきて彼のでき物をなめていた。三この貧しい人がついに死に、御使たちに連れられてアブラハムのふところに送られた。金持も死んで葬られた。三そして黄泉にいて苦しみながら、目をあげると、アブラハムとそのふところにいるラザロとが、はるかに見えた。三そこで声をあげて言った、『父、アブラハムよ、わたしをあわれんでください。ラザロをおつかわしになって、その指先を水でぬらし、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの火炎の中で苦しみもだえています。』三アブラハムが言った、『子よ、思い出すがよい。あなたは生前よいものを受け、ラザロの方は悪いものを受けた。しかし今ここでは、彼は慰められ、あなたは苦しみもだえている。三そればかりか、わたしたちとあなたがたの間には大きな淵がおいてあって、こちらからあなたがたの方へ渡ろうと思ってもできないし、そちらからわたしたちの方へ越えて来ることもしできない。』三そこで金持が言った、『父よ、ではお願いします。わたしの父の家へラザロをつかわしてください。三わたしに五人の兄弟がいますので、こんな苦しい所へ来ることがないように、彼らに警告していただきたいのです。』三アブラハムは言った、『彼らにはモーセと預言者とがある。それに聞くがよからう。』三金持が言った、『いえいえ、父アブラハムよ、もし死人の中からだれかが兄弟たちのところへ行ってくれましたら、彼らは悔い改めるでしょう。』三アブラハムは言った、『もし彼らがモーセと預言者とに耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであろう。』